

クランの総責任者、ハイメ・デ・ラ・クルス「この賞は私たちの誇りです」
ナノバブル関連の会社が水産養殖イノベーション賞を受賞



投稿日: 2022 年 8 月 16 日

つい先日の 11 日木曜日に開催された AquaSur 2022 デイナーでは、サーモン養殖に関連するイニシアチブを 3 つの異なるカテゴリーで表彰する時間が与えられました。そのうちの 1 つは、Kran Nanobubble 社に授与された「水産イノベーション賞 (Aquaculture Innovation)」です。

この会社は、科学の最前線にあるテクノロジーであり 100% 環境に配慮したハイテクであることを基本的な柱とする会社を作りたいという願望から生まれました。「さまざまな代替案を探していたところ、世界でまだ開発途中であるこの技術にたどり着きました。そして非常に長く続くと確信しているこの技術開発レースに参加したいと思いました。世界中でより多くの方に解釈されていき、持続可能な方法で発展し続けるでしょう」、Kran の総責任者であるハイメ・デ・ラ・クルス (Jaime de la Cruz) 氏は説明します。

彼の最初の数年は、このアプリケーションを開発するために、常に科学に基づいての調査、研究、旅、学習、試行錯誤の連続でした。「最初の段階で初のナノバブル発生装置を製造することができましたが、重要なことはアプリケーションを開発することであり、それに私たちは最も多くの時間を費やしました」と彼は付け加えます。「私たちは、絶え間なく装置の進化と改良を続けてきました。その結果、この技術を研究し検証する母体である日本の FBIA (ファインバブル協会) によって認められるようになりました」。

彼の価値提案は、産業の悩みに対して科学の力によってアプリケーションを開発することですが、これに至るまでは単に機械を販売するよりもはるかに長い道のりです。しかし現在、同社はその道を歩んだことを誇りに思っております。なぜなら、すでに特許を取得したアプリケーションやその他進行中のアプリケーションにより、彼らはベンチマークとして世界的に位置付けられるようになったからです。

AQUA は、AquaSur 2022 Dinner で受け取った表彰についてハイメ・デ・ラ・クルス氏と話しました。彼の反応は次のとおりです。

AquaSur Dinner では、水産養殖イノベーション賞 (Aquaculture Innovation 賞) を受賞しました。特に評価を得るために開発したものは何ですか？

この表彰を私たちは大変誇りに思っています。当社は、持続可能な生産的発展を追求する新技術のプロバイダーとして、5 年間積極的に参加してきました。FISA (チリのビジネス関連展示会主催会社) がこの分野で最も革新的な企業として当社を選んだのは、ソリューションを開発する当社の絶え間ない進化を彼らが観察してきたからです。

私たちはチリと鮭養殖だけに焦点を当てているのではなく、農業や水処理などの他の産業でもソリューションを開発してきました。特に水産養殖部門では、チリや鮭産業だけでなく、グアテマラ、ホンジュラス、エクアドルのエビ産業にも携わってきました。スペインや、最近ではフィリピンでのムール貝産業にも携わっており、ノルウェーでも好機を見いだしています。また、農業や工業などの他分野でもそれを再現しています。

クランでは、ナノバブルの科学を発端に、基礎からシステムを作り上げてきました。さまざまな生産プロセスにプラスの影響を与え、クライアントや目標値に合わせたソリューションを設計するために。

この表彰はあなたにとって何を意味しますか？

これはすばらしい表彰ですが、私は代表してこの業界の他の多くの起業家たちにも表彰したいと思います。彼らは今日すでに素晴らしい企業です。この表彰はクランだけでなくこの地域と業界の、技術を輸入するだけでなく世界中に輸出可能なソリューション開発の最前線にいる全ての起業家精神にあふれた世界に対してのものです。

私は水産養殖が発展している世界の多くの国を訪問する特権に恵まれておりますが、チリはその業界での生産面だけでなく、私たちが開発した技術的ソリューションの世界的なベンチマークでもあります。

イノベーションとプロジェクトの両方の観点において、将来の計画は何ですか？

Kran の最も面白い点は、革新を止めないことです。常に少なくとも 10 個のプロジェクトを並行して行っており、その中で大規模に実現できる可能性の最も大きいプロジェクトが残っていきます。

ナノバブルの未来と可能性は計り知れません。Kran でよく言うように、限界は私たちの想像力によって与えられます。私たちは、経済的、社会的、環境的利益をもたらすソリューションの開発に重点を置いて、日々成長する道を歩み続けたいと考えています。

私たちは今後もさらに多くの国での存在感を高めていきます。現在は 10 カ国ですが、すべての大陸に進出したいと考えています。そのための道は、成長し続け、この革新的な技術を拡大し続けることです。

写真: B2B メディアグループ